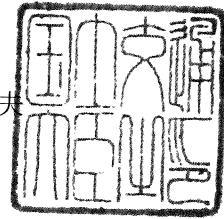


認定書

国住参建第 4392 号
令和 5 年 3 月 9 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PC030BE-4033-1(3)
2. 認定をした構造方法等の名称
発泡プラスチック断熱材充てん／パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板・外装構造用面材[せっこうボード]表張／せっこうボード裏張
／木製軸組造外壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別添

1. 構造名

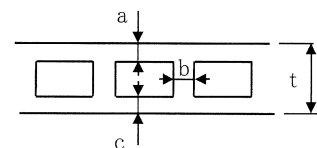
発泡プラスチック断熱材充てん／パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板・外装構造用
面材 [せっこうボード] 表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様								
① 塗装パルプ繊維 混入セメントけ い酸カルシウム 押出成形板	<p>基材 パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板 規格 JIS A 5422 組成 (質量%)</p> <table border="0"> <tr> <td>けい酸カルシウム化合物</td> <td>71~96</td> </tr> <tr> <td>有機質系繊維 (パルプ等)</td> <td>3~6</td> </tr> <tr> <td>有機質系混和材 (セルロース粉等)</td> <td>1~3</td> </tr> <tr> <td>無機質系混和材 (マカ・パーライト等)</td> <td>0~20</td> </tr> </table> <p>※但し、有機質系繊維と有機質系混和材の合計は8以下とする</p> <p>表面塗装 種類：下記のいずれかによる。 なし、アクリル系樹脂、アクリルウレタン系樹脂、アクリルシリコン系樹脂、無機質系 (シラン系)、またはこれらの組合せ 塗布量 (g/m²) : 100 (±10) 以下 (有機質固形分量)</p> <p>裏面塗装 種類：下記のいずれかによる。 なし、アクリル系樹脂 塗布量 (g/m²) : 30 (±3) 以下 (有機質固形分量)</p> <p>比重 (g/cm³) : 1.1 (±0.2) (絶乾) 厚さ (mm) : 16 (±1.3) ~ 25 (±2) 大きさ (mm) 働き幅 : 455 (±1) ~ 600 (±1) 長さ : 3,030 (±1) 以下 (大きさは一般部における寸法を示す。)</p> <p>端部形状 (外装材相互の重なりと隙間) 重なり (mm) : 11 (±1) ~ 15 (±1.5) 隙間 (mm) : 3 (±0.3) 以下</p> <p>断面形状 形状：中空品または中実品 最小厚さ (mm) : 11 (±1) 以上 エンボス・溝模様の容積欠損率 (%) : 12 (±1.2) 以下 (但し、板厚 16 mm を超える場合は裏面から 16 mm の位置での欠損率とする) 中空率 (%) : 3 (±0.3) ~ 16 (±1.6) (中空品の場合) (但し、板厚 16 mm を超える場合は厚さを増した分だけ中空部高さを増し、16% を超えて中空率を上げることができる)</p> <p>※中空の形状 (mm) (中空品の場合) 中空部 (表面肉厚 a) : 3 (±0.3) 以上 中空部 (肉厚 b) : 3.5 (±0.35) 以上 中空部 (表面肉厚 c) : 4 (±0.4) 以上</p> <p>表面形状 平滑、粗面、エンボス、溝模様またはこれらの組合せ</p>	けい酸カルシウム化合物	71~96	有機質系繊維 (パルプ等)	3~6	有機質系混和材 (セルロース粉等)	1~3	無機質系混和材 (マカ・パーライト等)	0~20
けい酸カルシウム化合物	71~96								
有機質系繊維 (パルプ等)	3~6								
有機質系混和材 (セルロース粉等)	1~3								
無機質系混和材 (マカ・パーライト等)	0~20								



つづく

つづき

項	目	製 品 仕 様
① 外 装 材	塗装パルプ繊維 混入セメントけ い酸カルシウム 押出成形板	<p>水密材(あり又はなし)</p> <p>種類：エラストマー系樹脂</p> <p>使用量(g/m)：3(±3)以下</p> <p>縦目地の種類：下記のいずれかによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目透かし目地(目地幅11(±1)mm以下) ・金属製ジョイナー目地 ・本実目地 ・合いじゃくり目地 ・突付け目地 <p>張方：横張</p> <p>取付け工法：a又はbのいずれかによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 外装材留金具工法 b. 胴縁併用外装材留金具工法
	外装構造用面材	<p>種類：せっこうボード</p> <p>規格等：aからdのいずれかによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：難燃材料認定番号 RM-0059 形状：平板 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ(mm)：9.5(±0.95) 密度(g/cm³)：0.73(±0.07) b. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：準不燃材料認定番号 QM-0954-1 形状及び端部の形状は前記のaに同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95) 密度(g/cm³)：0.8(±0.08) c. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：準不燃材料認定番号 QM-0955-1 形状、端部の形状及び密度は前記のbに同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25) d. 両面ボード用原紙張せっこう板 規格：不燃材料認定番号 NM-4127 形状及び端部の形状は前記のaに同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25) 密度(g/cm³)：1.0(±0.1) <p>横目地数：1本(1列)(あり又はなし)</p> <p>(横目地数は、壁高さ(土台と横架材等の間の寸法)が3,000mm以下の場合における本数(列数)を示す。)</p>

項 目	製 品 仕 様
② 木 製 下 地 材	種類：a から d のいずれかによる。 a. 平成 12 年建設省告示第 1452 号に規定する構造用製材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) b. 平成 13 年国土交通省告示第 1024 号に規定する構造用集成材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) c. 平成 13 年国土交通省告示第 1024 号に規定する構造用単板積層材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) d. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 断面寸法 (mm) : 105 以上×105 以上 密度 (g/cm ³) : 0.35 (±0.05) 以上 取付け間隔 (mm) 柱と間柱の間隔：500 (±50) 以下 (一般部における寸法を示す。)
中間柱	種類：a から e のいずれかによる。 a. 構造用製材、造作用製材又は下地用製材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) b. 構造用集成材又は造作用集成材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) c. 構造用単板積層材又は造作用単板積層材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) d. 枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材 (JAS 及び JAS 材の加工品を含む) e. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 断面寸法 (mm) : 45 以上×105 以上 取付け間隔 (mm) 中間柱と間柱の間隔：500 (±50) 以下 (一般部における寸法を示す。) 中間柱と柱の間隔、又は間柱を介する場合の中間柱相互の間隔：1,000 (±100) 以下 (一般部における寸法を示す。)
間柱	種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法 (mm) : 27 以上×105 以上 取付け間隔 (mm) 間柱と柱又は中間柱の間隔：500 (±50) 以下 (一般部における寸法を示す。)

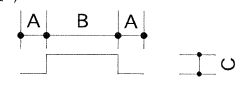
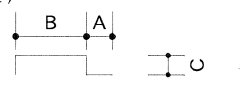
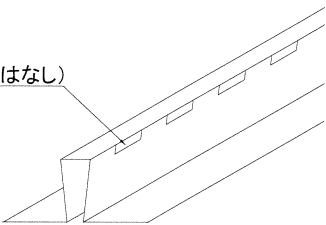
項	目	製 品 仕 様
③ 断熱材	中空部断熱材	発泡プラスチック断熱材 種類、規格等：a から e のいずれかによる。 a. 押出法ポリスチレンフォーム 規格：JIS A 9511、JIS A 9521 厚さ (mm)：5 (±2)～150 (±15) 密度 (kg/m ³)：20 (±2)～39 (±4) b. ビーズ法ポリスチレンフォーム 規格：JIS A 9511、JIS A 9521 厚さ (mm)：10 (±2)～150 (±15) 密度 (kg/m ³)：15 (±2)～33 (±3) c. 硬質ウレタンフォーム 規格：JIS A 9511 (A 種 1 種、B 種 1 種)、JIS A 9521 (1 種) 厚さ (mm)：5 (±2)～150 (±15) 密度 (kg/m ³)：25 (±3)～43 (±5) d. フェノールフォーム 規格：JIS A 9511、JIS A 9521 厚さ (mm)：5 (±2)～150 (±15) 密度 (kg/m ³)：13 (±2)～50 (±5) e. 吹付け硬質ウレタンフォーム 規格：JIS A 9526 厚さ (mm)：150 (±15) 以下 密度 (kg/m ³)：70 (±7) 以下
④ 内装材	せっこうボード	規格：JIS A 6901 (せっこうボード製品) 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエア、テーパまたはベベル 厚さ (mm)：9.5 (±0.5)～25 (±0.5) 密度 (g/cm ³)：0.65 以上 横目地数：1 本 (1 列) (あり又はなし) (横目地数は、壁高さ (土台と横架材等の間の寸法) が 3,000mm 以下の場合における本数 (列数) を示す。)

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料 胴縁(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に用いる。)	仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合) 種類：a から i のいずれかによる。 a. 製材(無等級材又は JAS(加工品を含む)) b. 集成材(無等級材又は JAS(加工品を含む)) c. 構造用合板(JAS(加工品を含む)) d. 化粧ばり構造用合板(JAS(加工品を含む)) e. 普通合板(JAS(加工品を含む)) f. 構造用パネル(JAS(加工品を含む)) g. 単板積層材(JAS(加工品を含む)) h. パーティクルボード(JIS A 5908) i. MDF(JIS A 5905) 断面寸法(mm) 一般部：12(±1.2)以上×40(±4)以上 外装材縦目地部：a 又は b のいずれかによる。 a：12(±1.2)以上×80(±8)以上の1列使い b：12(±1.2)以上×40(±4)以上の2列使い 取付け間隔(mm)：500(±50)以下
補強用胴縁(補強用下地材を用いる場合に取付ける。)	仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり(補強用下地材を用いる場合) 種類：前記の胴縁に同じ。 断面寸法(mm)：5(±0.5)以上×40(±4)以上 取付け間隔(mm)：500(±50)以下
受材及び補強用下地材(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27(±2.7)以上×27(±2.7)以上
防水紙(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：a から f のいずれかによる。 a. 透湿防水シート(JIS A 6111) b. ポリエチレン樹脂系 c. ポリエステル樹脂系 d. ポリプロピレン樹脂系 e. 上記 b~d の組み合わせ f. 上記 a~e にアルミニウム表面処理を施したもの 厚さ(mm)：0.5(±0.05)以下

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料 防湿気密フィルム(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：a から h のいずれかによる。 a. 住宅用プラスチック系防湿フィルム (JIS A 6930) b. 包装用ポリエチレンフィルム (JIS Z 1702) c. 農業用ポリエチレンフィルム (JIS K 6781) d. ポリエチレン樹脂系 e. ポリエステル樹脂系 f. ポリプロピレン樹脂系 g. ポリアミド樹脂系 h. 上記 a～g にポリマーコーティングを施したもの 厚さ (mm) : 0.2 (±0.02) 以下
外装材留金具	種類：a から f のいずれかによる。 a. 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) b. 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) c. 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) d. 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) e. 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) f. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) 寸法 (mm) : 幅 44 (±4) 以上、高さ 50 (±5) 以上 ツメの掛かり代合計面積 (mm ²) : 183 (±18) 以上 (壁面見附面積 : $\sum A_n + \sum B_n$) 厚さ (mm) : 0.8 (±0.08) 以上 ふかし厚さ (mm) : 5 (±0.5) 以上 留付け間隔 (mm) : 鉛直方向 ; 外装材の働き幅に応じた間隔以下 水平方向 ; 500 (±50) 以下
外装材の縦目地部の処理材	種類: 1), 2) の併用、1), 3) の併用又は4) のみのいずれかによる。 1) シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 建築用シーリング材 (JIS A 5758)、ポリウレタン系、シリコーン系、ポリイソブチレン系、変成シリコーン系、ポリサルファイド系、アクリルウレタン系又はアクリル系 充てん高さ (mm) : 5 (±0.5) 以上 2) バックアップ材 種類：下記のいずれかによる。 ポリエチレン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、ポリエチレン酢酸ビニル系、ポリ塩化ビニル系、ポリエチレンテレフタレート系、ポリウレタン系、ポリオレフィン系、シリコーン系、アクリル系、フェノール系又は合成ゴム系 充てん厚さ (mm) : 3 (±0.3) 以上

つづく

つづき

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料 外装材の縦目地部の処理材	3) ハット形ジョイナー 種類及び規格：下記のいずれかによる。 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) ・ 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) ・ 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) ・ 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318) ・ 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) ・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322) ・ 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) ・ 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) ・ 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) ・ ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744) 厚さ (mm) : 0.2 (±0.02) 以上 形状及び寸法 (mm) : 形状は i) 又は ii) のいずれかによる。 i)  ii)  A : 3 (±1) 以上、B : 11 (±1) 以下、C : 3 (±1) 以上 側面孔 (あり又はなし) 孔形状 : 3 (±0.3) × 10 (±1) 以下 間隔 : 20 (±2) 以上  4) 金属製ジョイナー 種類及び規格：上記ハット形ジョイナーに同じ。 厚さ (mm) : 0.2 (±0.02) 以上 形状 : H 形
スペース (必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：a から h のいずれかによる。 a. ポリプロピレン b. ポリエチレン c. ポリエステル d. ゴム系 e. 木製 f. 繊維強化セメント板 g. 繊維板 h. せっこう板 寸法 (mm) : 幅 50 (±5) 以下、長さ 150 (±15) 以下 使用量 (g) : 1 箇所あたり 9.5 (±1) 以下 取付け間隔：外装材の働き幅に応じた間隔以上
目地処理材 (必要に応じて処理する。)	仕様：あり又はなし 外装構造用面材用 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量 (g/m) : 10 (±1) 以上

つづく

つづき

項	目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	目地処理材(必要に応じて処理する。)	せっこうボード用 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量 (g/m)：10 (±1) 以上 ガラス繊維テープ又は紙テープの寸法 (mm)：厚さ 0.05 (±0.01) 以上、 幅 20 (±2) 以上 目地処理方法 必要に応じて、目地処理材のみで又は目地処理材とガラス繊維テープ等を併用して処理する。
	留付け材	外装材留金具固定用 種類及び寸法：a から c のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製スクリークぎ 寸法 (mm)：φ1.7 (±0.2) 以上×L25 (±2.5) 以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法 (mm)：φ1.7 (±0.2) 以上×L25 (±2.5) 以上 c. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：φ2.1 (±0.2) 以上×L25 (±2.5) 以上 留付け本数：外装材留め金具 1 個につき 1 本以上 外装材固定用 仕様：あり又はなし 種類及び寸法：a から c のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製スクリークぎ 寸法 (mm)：φ1.8 (±0.2) 以上×L32 (±3.2) 以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法 (mm)：φ1.8 (±0.2) 以上×L32 (±3.2) 以上 c. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：φ3.0 (±0.3) 以上×L32 (±3.2) 以上 留付け間隔 (mm)：3,000 (±300) 以下 (外装材 1 枚につき 1 本以上) 外装構造用面材固定用 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法 (mm)：φ1.7 (±0.2) 以上×L25 (±2.5) 以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：φ2.1 (±0.2) 以上×L25 (±2.5) 以上 留付け間隔 (mm)：200 (±20) 以下

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	<p>留付け材</p> <p>胴縁固定用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (胴縁を用いる場合) 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法 (mm)：$\phi 1.8 (\pm 0.2)$ 以上 $\times L32 (\pm 3.2)$ 以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：$\phi 3.0 (\pm 0.3)$ 以上 $\times L32 (\pm 3.2)$ 以上 留付け間隔 (mm)：500 (± 50) 以下</p> <p>補強用胴縁固定用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (補強用胴縁を用いる場合) 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法 (mm)：$\phi 1.7 (\pm 0.2)$ 以上 $\times L25 (\pm 2.5)$ 以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：$\phi 2.1 (\pm 0.2)$ 以上 $\times L25 (\pm 2.5)$ 以上 留付け間隔 (mm)：3,000 (± 300) 以下</p> <p>受材固定用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (受材を用いる場合) 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法 (mm)：$\phi 1.8 (\pm 0.2)$ 以上 $\times L32 (\pm 3.2)$ 以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：$\phi 3.0 (\pm 0.3)$ 以上 $\times L32 (\pm 3.2)$ 以上 留付け本数：片側 1 本以上</p> <p>補強用下地材固定用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (補強用下地材を用いる場合) 種類及び寸法：前記の受材固定用に同じ。 留付け本数：片側 1 本以上</p> <p>防水紙仮留め用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (防水紙を用いる場合) 種類及び仕様：a から c のいずれかによる。 a. ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法 (mm)：厚さ 0.5 (± 0.1) 以下、幅 50 (± 5) 以下 貼付け間隔 (mm)：455 (± 45.5) 以上 b. スプレーのり 塗布量 (g/m)：30 (± 3) 以下 塗布間隔 (mm)：455 (± 45.5) 以上 c. ステープル 寸法 (mm)：幅 10 (± 1) 以上、長さ 6 (± 1) 以上</p>

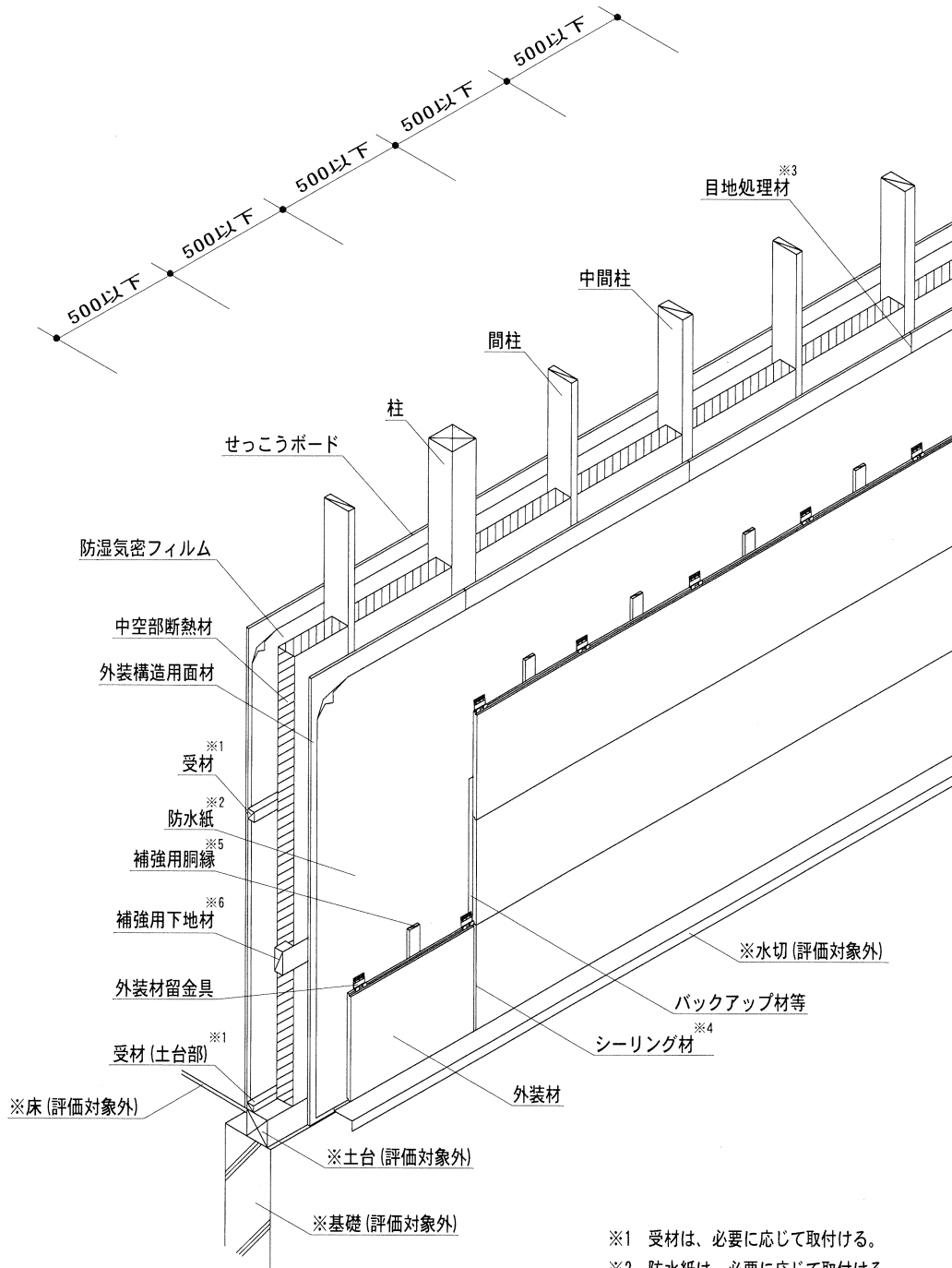
項	目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>防湿気密フィルム仮留め用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり（防湿気密フィルムを用いる場合） 種類及び仕様：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. プチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法 (mm)：厚さ 0.5 (±0.1) 以下、幅 50 (±5) 以下 貼付け間隔 (mm)：500 (±50) 以上</p> <p>b. スプレーのり 塗布量 (g/m)：30 (±3) 以下 塗布間隔 (mm)：500 (±50) 以上</p> <p>c. ステープル 寸法 (mm)：幅 10 (±1) 以上、長さ 6 (±1) 以上</p> <p>中空部断熱材仮留め用 仕様：あり又はなし 種類：ステープル 寸法 (mm)：幅 10 (±1) 以上、長さ 6 (±1) 以上</p> <p>せっこうボード固定用 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：φ3.8 (±0.4) 以上×L25 (±2.5) 以上 留付け間隔 (mm)：200 (±20) 以下</p>

4. 構造説明図

(1) 外装材留金具工法仕様

①透視図（屋外側）

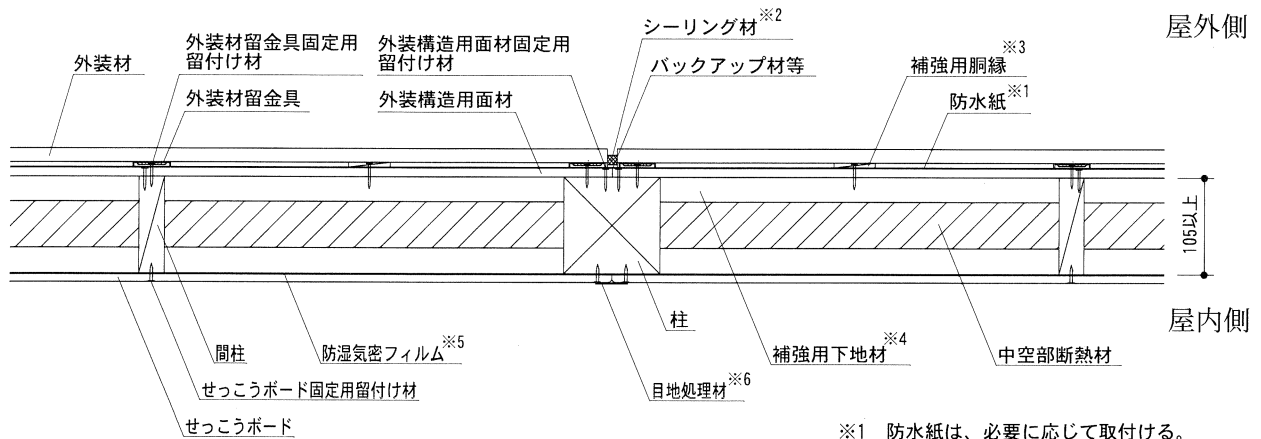
(単位：mm)



- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※5 補強用胴縁は、補強用下地材を用いる場合に取付ける。
- ※6 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

②水平断面図

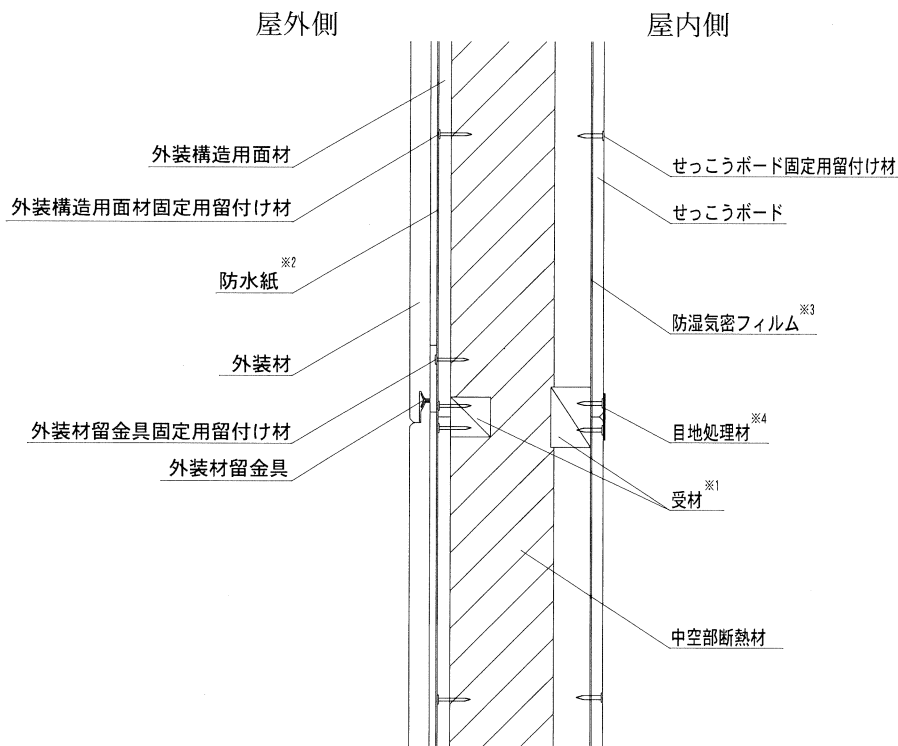
(単位 : mm)



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※3 補強用胴縁は、補強用下地材を用いる場合に取付ける。
- ※4 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※5 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※6 目地処理材は、必要に応じて処理する。

③鉛直断面図

(単位 : mm)

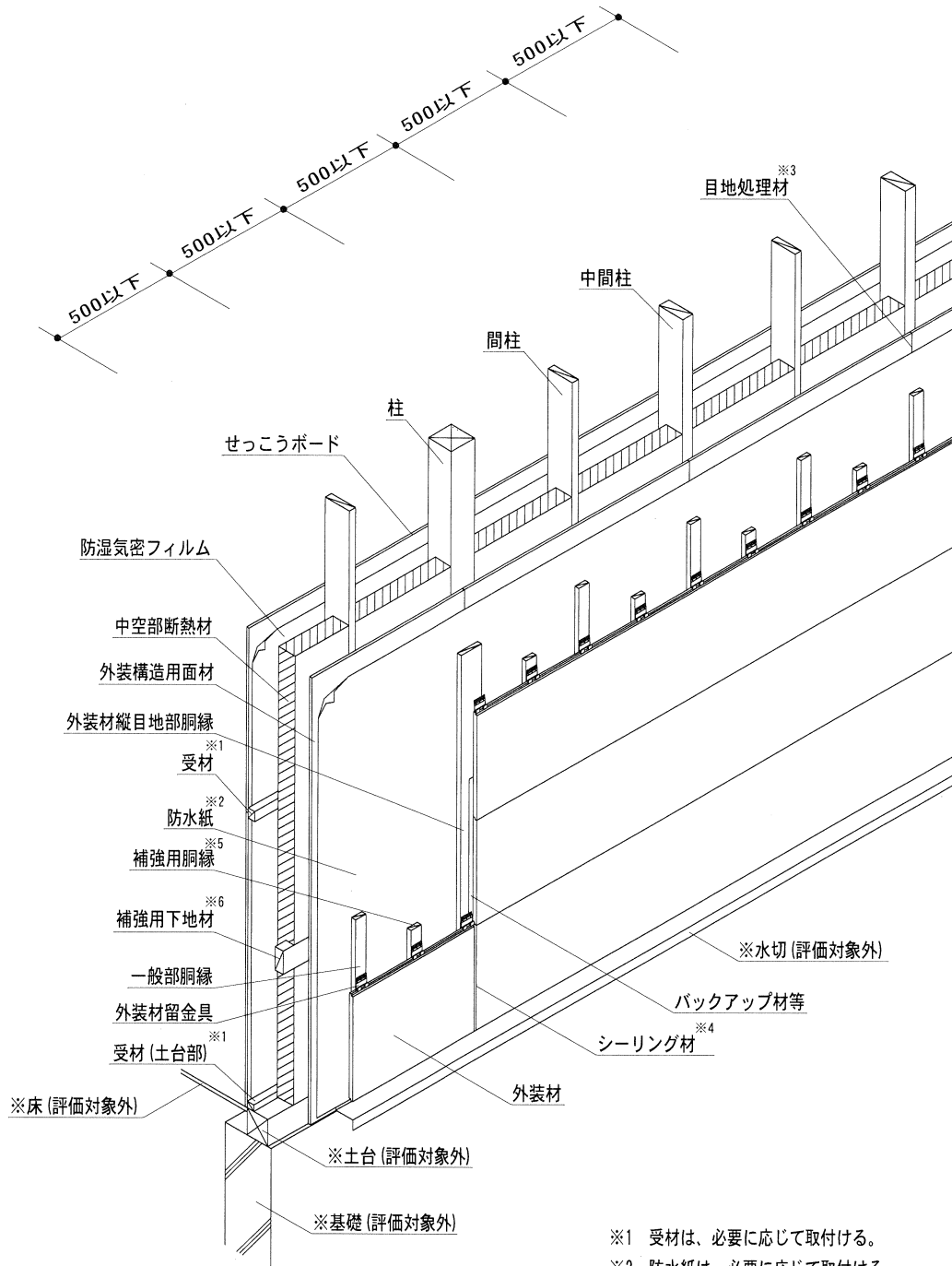


- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 目地処理材は、必要に応じて処理する。

(2) 胴縁併用外装材留金具工法仕様

①透視図 (屋外側)

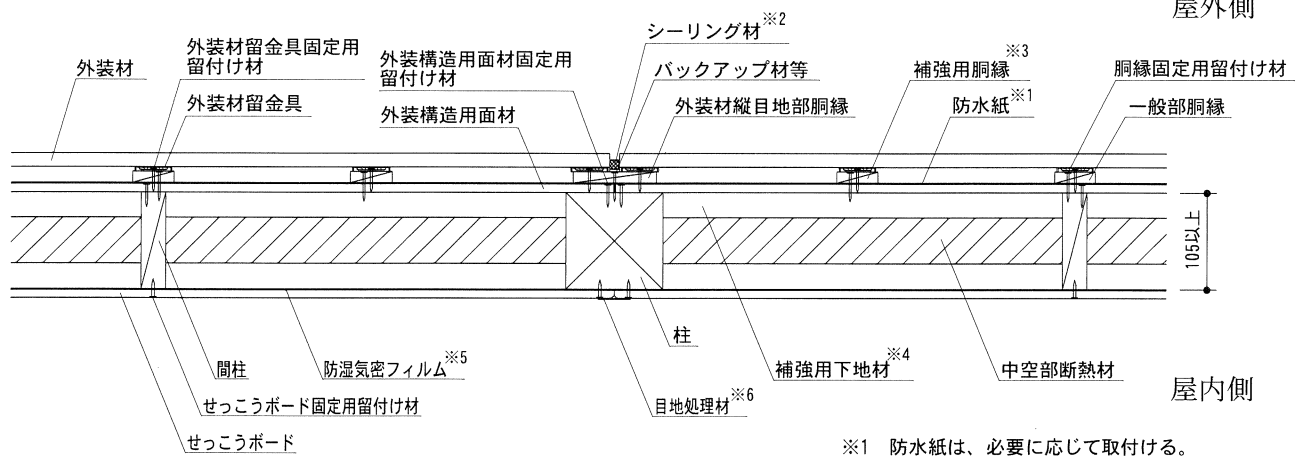
(単位: mm)



- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※5 補強用胴縁は、補強用下地材を用いる場合に取付ける。
- ※6 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

②水平断面図

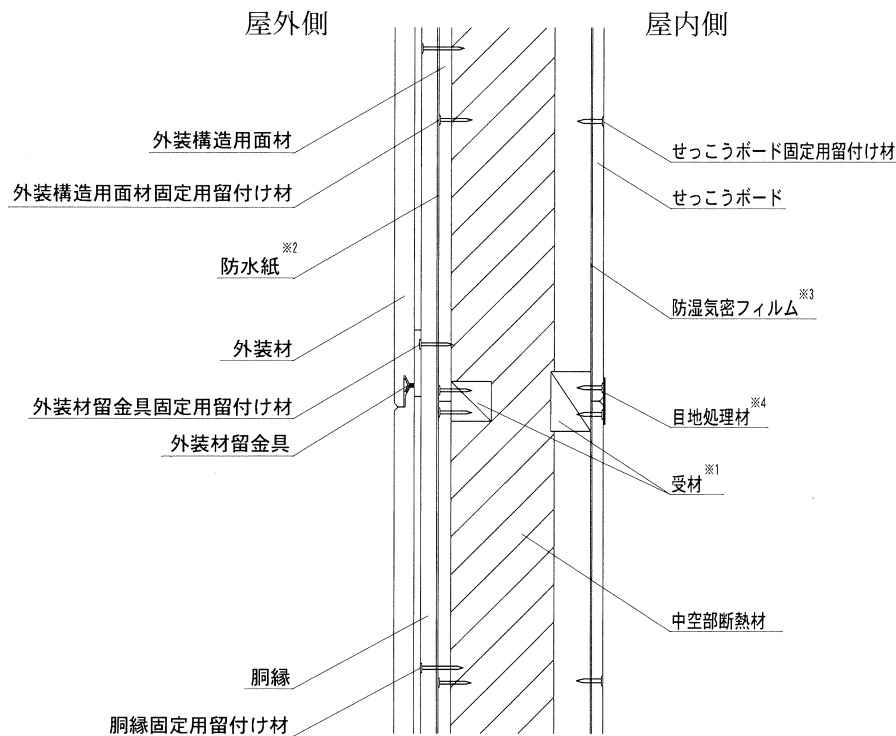
(単位 : mm)



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※3 補強用胴縁は、補強用下地材を用いる場合に取付ける。
- ※4 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※5 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※6 目地処理材は、必要に応じて処理する。

③鉛直断面図

(単位 : mm)

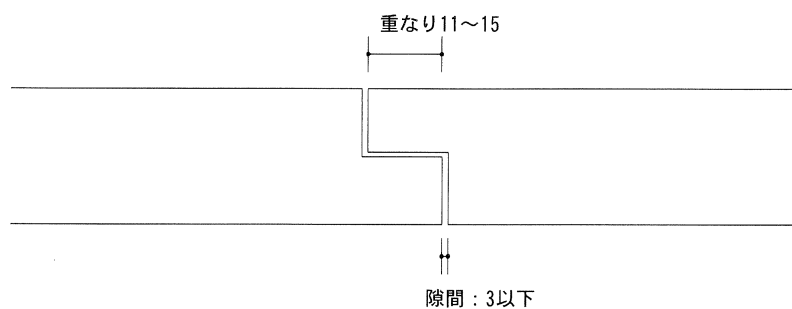


- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 目地処理材は、必要に応じて処理する。

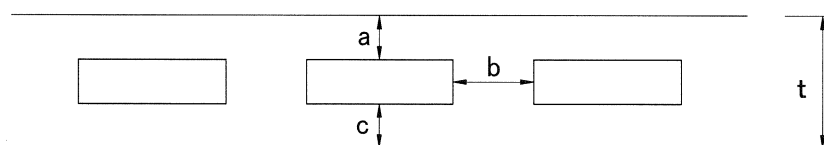
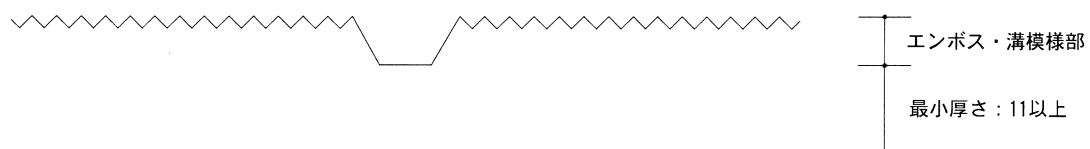
(3) 外装材の端部形状および断面形状の概略図

(単位 : mm)

①端部形状



②断面形状

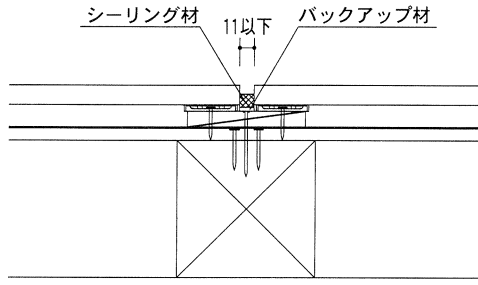


厚さ t	16以上
a	3以上
b	3.5以上
c	4以上

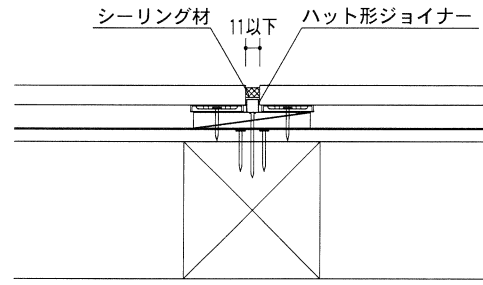
(4) 外装材の縦目地の概略図
 (胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合の例)

(単位 : mm)

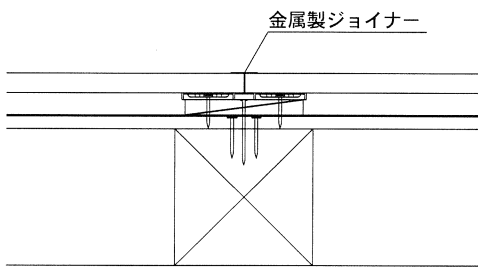
① 目透かし目地
 (バックアップ材+シーリング材)



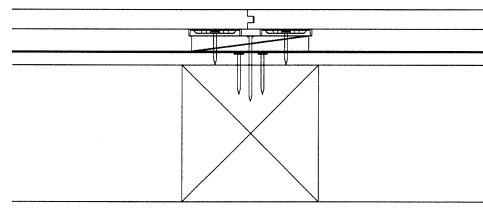
② 目透かし目地
 (ハット形ジョイナー+シーリング材)



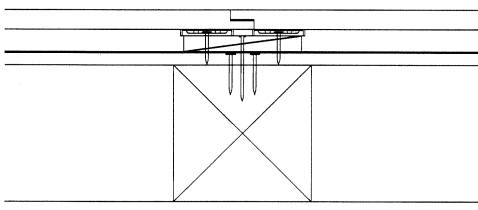
③ 金属製ジョイナー目地



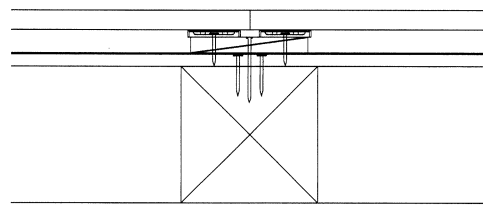
④ 本実目地



⑤ 合いじゃくり目地

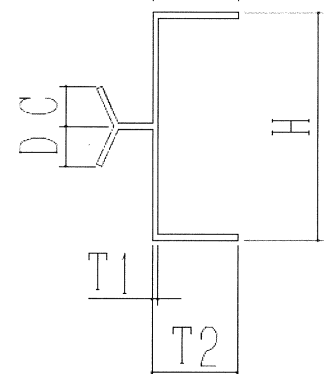
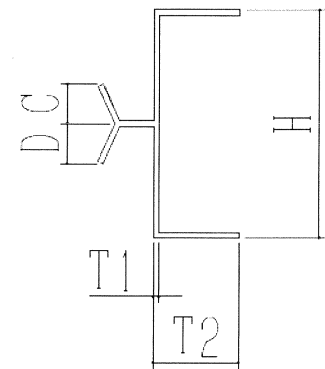
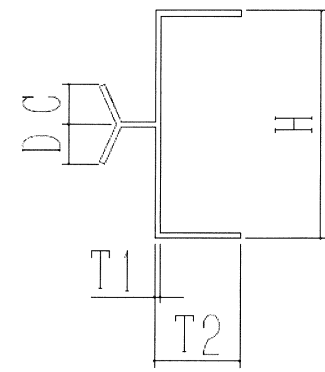
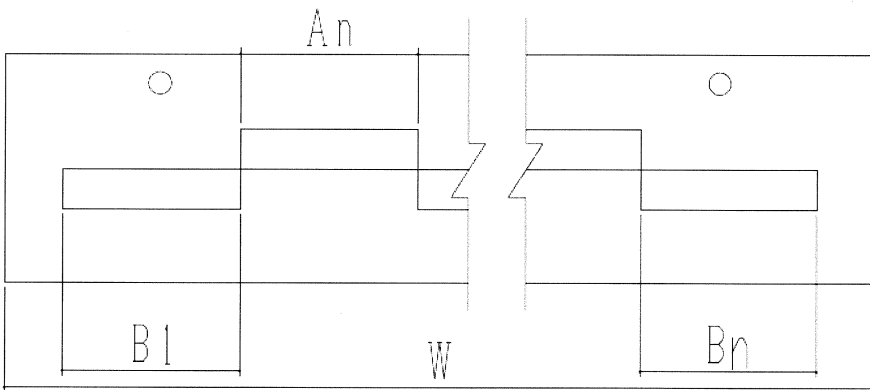
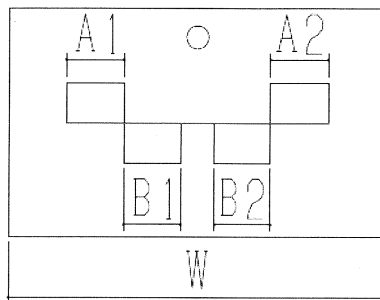
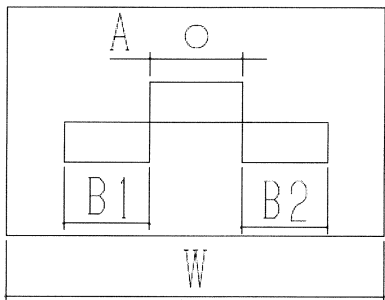
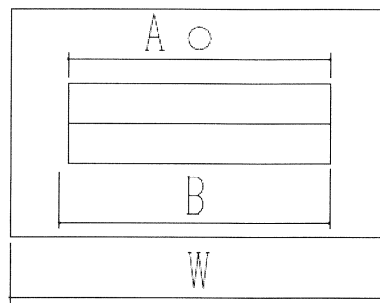
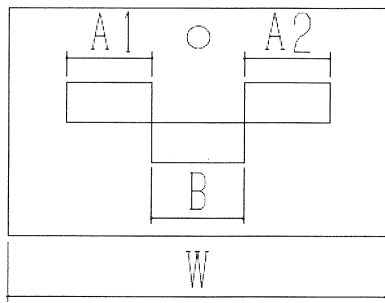


⑥ 突付け目地



(5) 外装材留金具の概要図

(単位 : mm)



$\Sigma A_n + \Sigma B_n$ (mm ²)	C	D	H	T 1	T 2	W
183 (±18) 以上	6.7 (±0.7) 以上	5.5 (±0.6) 以上	50 (±5) 以上	0.8 (±0.08) 以上	5 (±0.5) 以上	44 (±4) 以上

5. 施工方法

(1) 木製下地材の組立て

柱を土台に取付ける。柱と柱の間に断面寸法が 27mm 以上×105mm 以上の間柱を 500mm 以下の間隔で配置し、土台に取付ける。この時、外装構造用面材又は内装材の縦目地部となる位置には断面寸法が 45mm 以上×105mm 以上の中間柱又は柱を使用する。必要に応じて、受材を外装構造用面材等の横目地となる位置に配置し、φ1.8mm 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で、片側 1 本以上、柱、間柱、中間柱等を取付ける。必要に応じて、補強用胴縁を取付ける場合には、補強用下地材を配置し、φ1.8mm 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で、片側 1 本以上、柱、間柱、中間柱等を取付ける。

(2) 外装構造用面材の取付け

外装構造用面材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、φ1.7mm 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等で、200mm 以下の間隔で木製下地材に取付ける。必要に応じて、横目地を設ける場合は、高さ 3,000mm に対して 1 本とする。

なお、外装構造用面材の目地部は、必要に応じて目地処理材で処理する。

(3) 防水紙の仮留め

必要に応じて、防水紙をたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で外装構造用面材に仮留めする。継ぎ目の重なりは 500mm 以下とする。

(4) 胴縁の取付け (胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に取付ける。)

胴縁は、幅 40mm 以上のものを 500mm 以下の間隔で柱、間柱及び中間柱にあたる箇所配置し、φ1.8mm 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で 500mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱等を取付ける (必要に応じて胴縁に下穴を開ける)。なお、外装材において、縦目地を設ける箇所には、幅 80mm 以上のもの 1 列又は幅 40mm 以上のもの 2 列を配置する。

(5) 補強用胴縁の取付け

必要に応じて、補強用胴縁は、幅 40mm 以上のものを 500mm 以下の間隔で胴縁間 (柱、間柱及び中間柱間) に配置し、φ1.7mm 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等を用いて、3,000mm 以下の間隔で補強用下地材又は受材を取付ける (必要に応じて補強用胴縁に下穴を開ける)。

(6) 外装材留金具の取付け

外装材留金具を、胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装構造用面材の表面に働き幅間隔で、φ1.7mm 以上×L25mm 以上の外装材留金具固定用鋼製スクリークぎ等を用いて、外装材を張付けながら取付ける。但し、通気層と同じ厚さの補強用胴縁を用いる場合、補強用胴縁には外装材留金具を取付けなくてもよい。

(7) スパースの取付け

必要に応じて、スパースをブチルゴムテープ等で胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装構造用面材の表面に取付ける。

(8) 外装材の取付け

外装材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、留金具にはめ込みながら張り上げる。外装材の縦目地は、柱等の下地がある場所で合わせる。取付けは、目地通りよく、不陸、目違いのないように行う。必要に応じて、φ1.8mm 以上×L32mm 以上の鋼製スクリークぎ等を用いて、胴縁、補強用胴縁又は柱、間柱、中間柱等を取付ける。外装材の縦目地の目地処理は、以下の方法で行う。

①目透かし目地

目透かし目地を設ける場合には、目地幅 11mm 以下になるように外装材を取付け、バックアップ材等を併用して、シーリング材を充てん高さ 5mm 以上となるように充てんする。

②金属製ジョイナー目地

H 形金属製ジョイナーに外装材をはめ込み、外装材を留付けて押える。

③本実目地

外装材の重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、表面側・裏面側のいずれかの端部を合わせて取付ける。

④合いじゃくり目地

外装材の重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、上実・下実のいずれかの端部を合わせて取付ける。

⑤突付け目地

目地部において、外装材を突付けて取付ける。

(9) 中空部断熱材の取付け

断熱材を柱、間柱、中間柱等の間に充てんする。必要に応じてステーブル等を用いて仮留めする。

(10) 防湿気密フィルムの仮留め

必要に応じて、防湿気密フィルムをたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で柱、間柱、中間柱等に仮留めする。継ぎ目の重なりは 100mm 以下とする。

(11) せっこうボードの取付け

せっこうボードを、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 3.8$ mm以上 \times L25 mm以上の鋼製等ねじで 200mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱、受材等に留付ける。

なお、せっこうボードの目地部は、必要に応じて目地処理材で処理する。